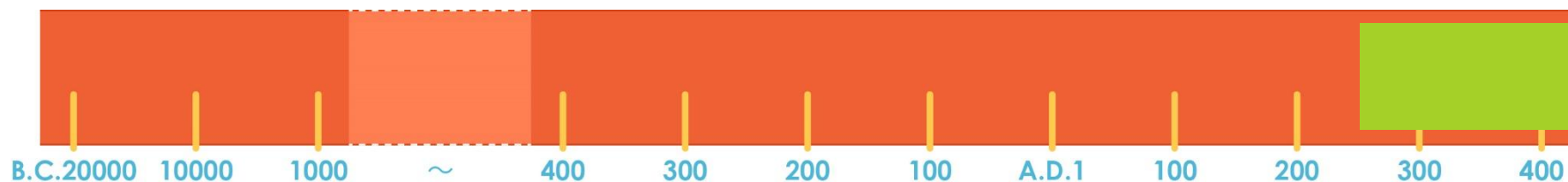


第 I 部 原始・古代
第1章 日本文化のあけぼの
3 古墳とヤマト政権 1

教科書 P.23～27

今回の学習範囲

1. 古墳の出現とヤマト政権
2. 前期・中期の古墳
3. 東アジア諸国との交渉



1 古墳の出現

3世紀中頃から後半になると、画一的な特徴をもつ大規模な(ア**前方後円墳**)をはじめとする古墳が(イ**西日本**)を中心に出現した。



箸墓古墳



卑弥呼の墓？
壺与の墓？
それとも…

奈良県桜井市の纏向遺跡には、弥生時代終末期の石塚・矢塚・勝山などの前方後円形の墳丘墓があり、…ホケノ山の西約200mに位置する**箸墓古墳(全長約280m)**は、**最古・最大の定型化された前方後円墳**である。この遺跡では前方後円墳出現までの推移をたどることができる。





2 ヤマト政権の成立

出現期の巨大古墳が集中する大和地方(奈良県)を中心に、ヤマト政権と呼ばれる政治連合が成立した。**資料集 p 38**



(白石太一郎氏図表一部改定)

B 畿内豪族の勢力範囲



(『日本歴史地図』ほか)

3 古墳とヤマト政権の拡大

古墳は4世紀の中頃までに東北地方中部にまで波及し、東日本にもヤマト政権の勢力が広がったことがわかる。

Point. 画一的な前方後円墳 = ヤマトグループの一員または同盟関係を結んだ豪族と考えられる。



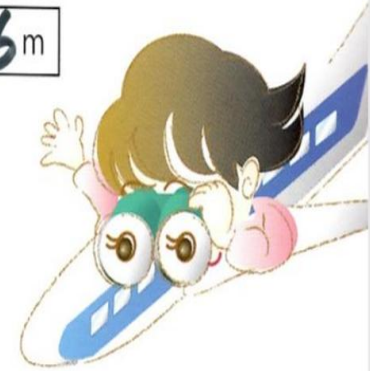
5 世紀 超巨大古墳が次々と作られた…

大仙陵古墳



堺市
仁徳天皇陵古墳
486m

1位



2位

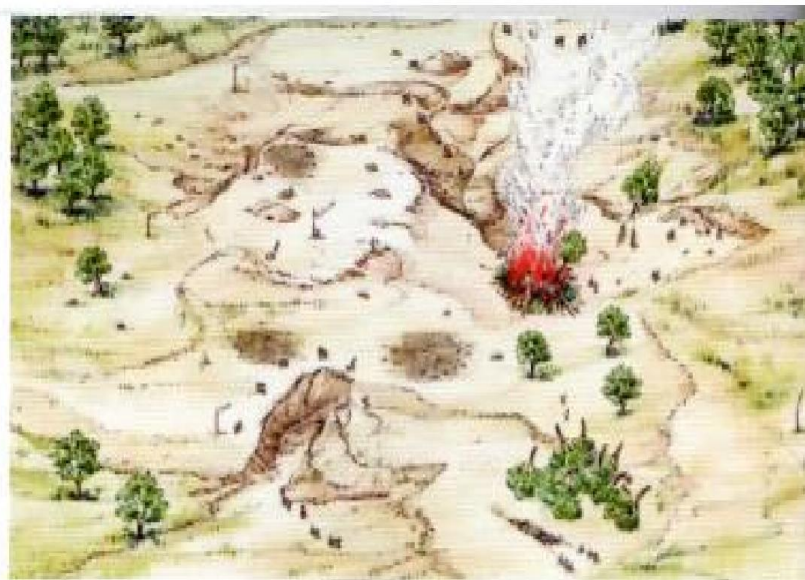
羽曳野市

おうじん
応神天皇陵古墳

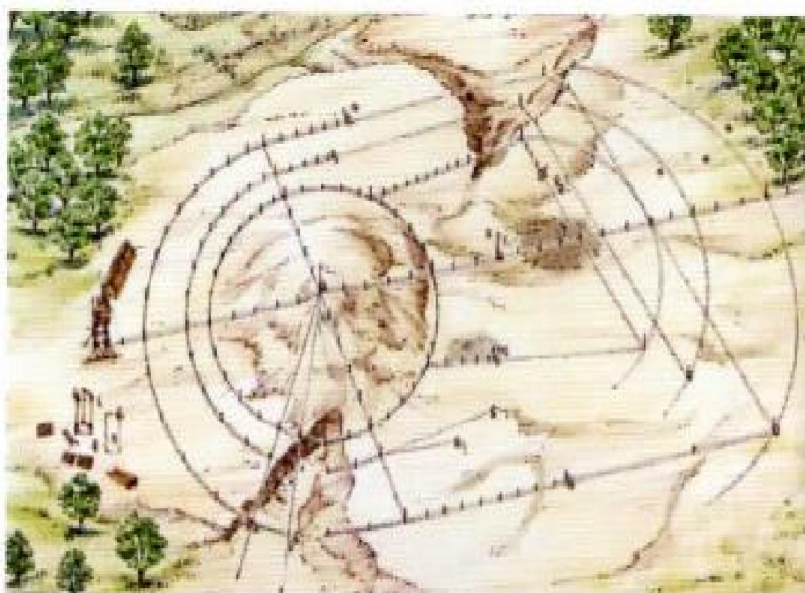
425m



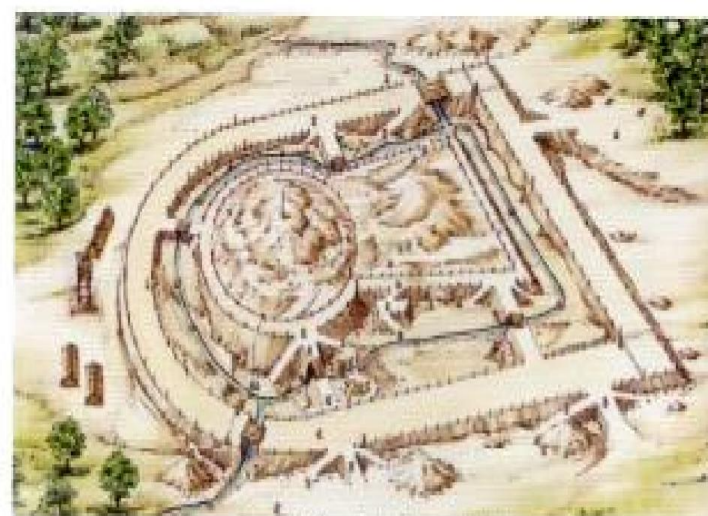
誉田御廟山古墳



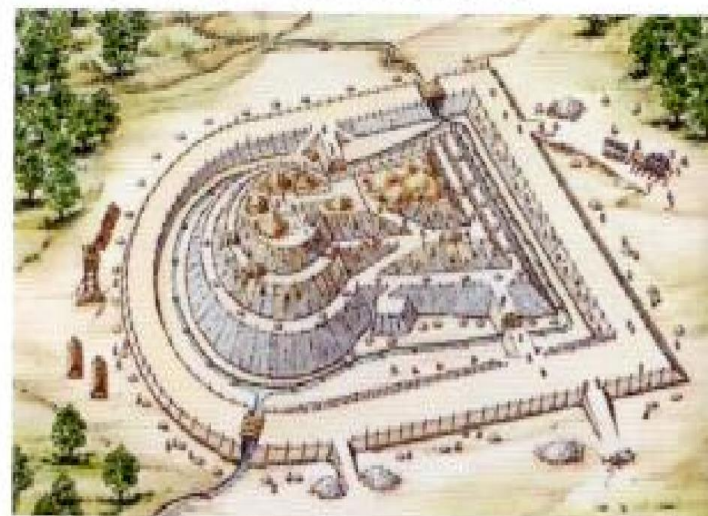
① 予定地^{よていち}の木を伐採^{ぼっさい}し、みとおしをよくする。



② 地面に設計図^{せつけいず}をえがいていく。ポイントには杭^{くい}を打つ



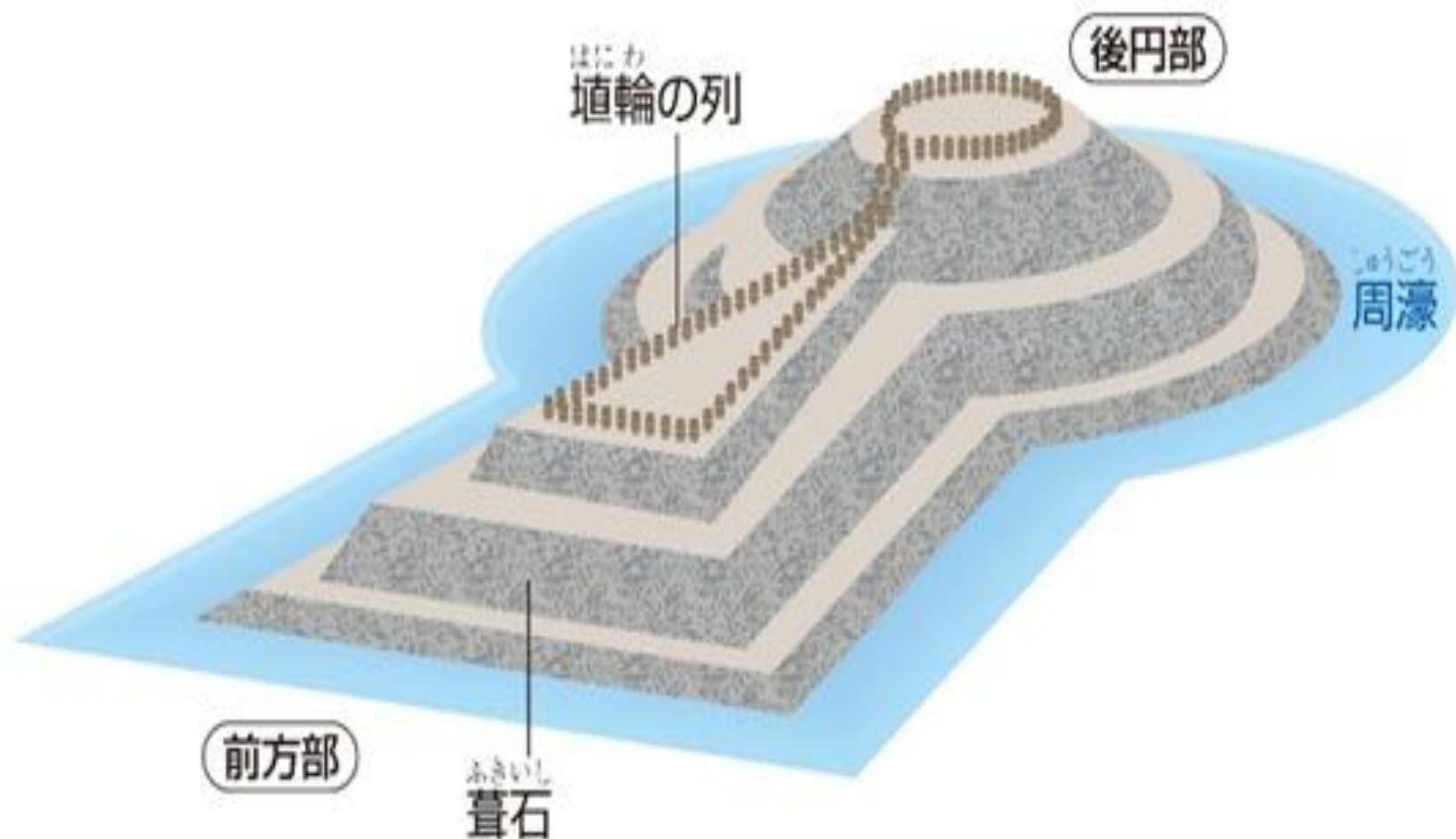
③ 地面を掘り下げて濠^{ほり}と墳丘^{ふんきゆう}の輪郭^{りんかく}をつくりあげる。掘り上げた土は墳丘^{ふんきゆう}にもる。足りない分は外部^{がい}から運び、墳丘^{ふんきゆう}の形をととのえる。



④ 墳丘斜面^{ふんきゆうせんめん}には川原石^{かわら}をはりつけて葺石^{ふいし}とする。後門部^{こうもんぶ}頂^{ちよう}に石棺^{せつかん}をおさめる大きな穴^{あな}を掘る。

1 古墳の外部の様子

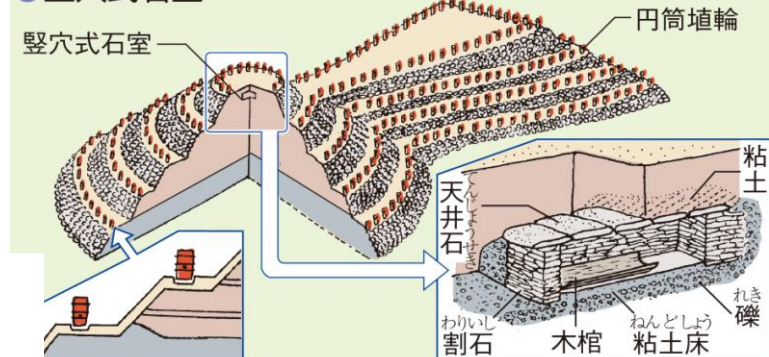
古墳の墳丘上には(ウ**埴輪**)が並べられ、斜面には(工**葺石**)がふかれ、墳丘のまわりには、濠をめぐるしたものも少なくない。



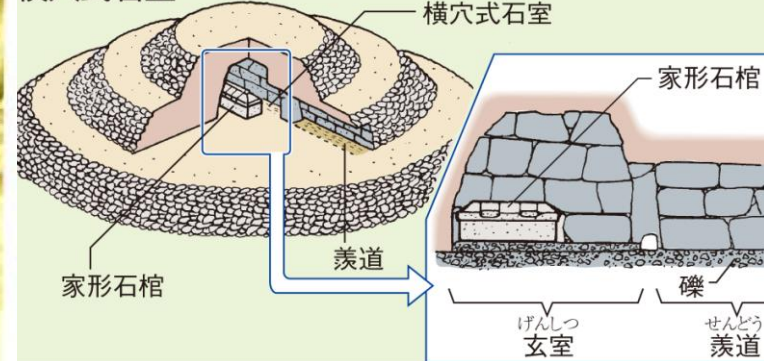
2 埋葬施設の様子

初期は木棺や石棺を(才**豎穴式**) **石室**におさめたものや粘土槨などが営まれたが、九州北部では中期の初め頃に(才**横穴式**) **石室**が出現し、**後期には一般化**した。

● 豎穴式石室



横穴式石室



← 重い石を運ぶ修羅

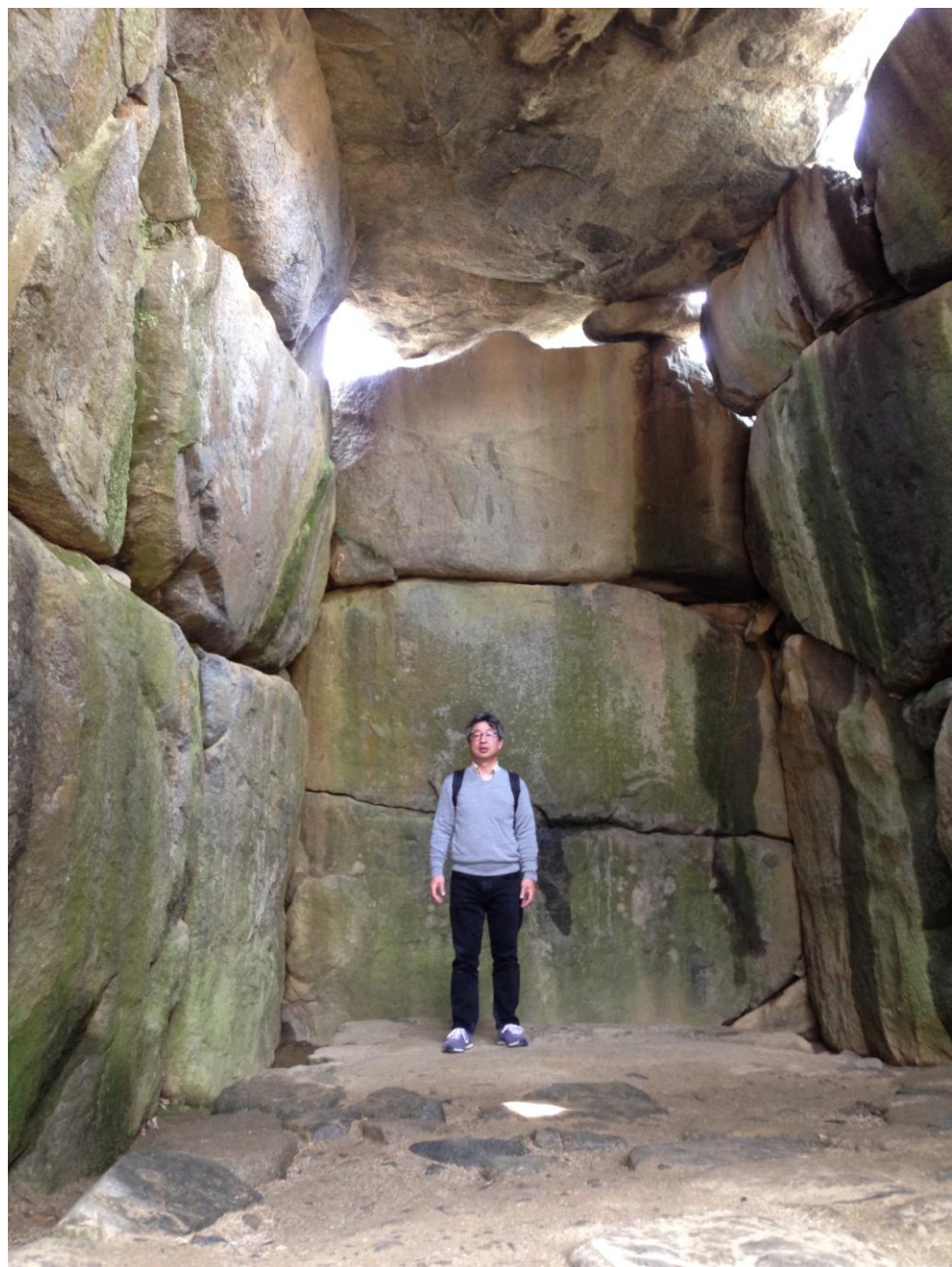


出土した大小の修羅とテコ棒 (重要文化財)
[大阪府教育委員会提供]



だいおう せつかん つ どうしるやま ながもちがた
大王の石棺 (津堂城山古墳出土の長持形石棺)

[大阪府教育委員会提供]

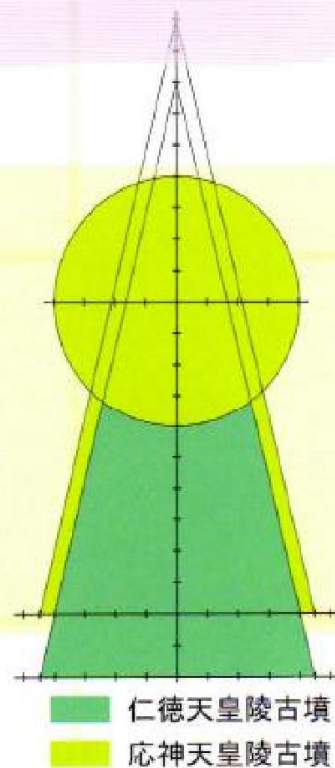


れません。

おうじんてんのうりょう 応神天皇陵古墳と にんとく 仁徳天皇陵古墳の ひみつ 秘密

この2基の巨大古墳は同じ大きさの円と二等辺三角形を組み合わせて設計しています。接続角度を変えるだけでまったく印象のことなる古墳につくりあげました。

ぜんぽうこうえん
 前方後円と
 たし
 という形を確かめよう！



古墳造営の専門家「土師」は、古代の理系頭脳集団だ！



以下に問題があります: 土師ニサンザイ古墳か?
地図の問題を報告する
その他のフィードバックを報告する

3 中期の大型前方後円墳とヤマト政権

大型前方後円墳は、(キ**大仙陵古墳**)(仁徳天皇陵)や
(ク**誉田御廟山古墳**)(応神天皇陵)などの大王の墓だけでなく、
地方の豪族のものもみられる。



Q. 大仙陵古墳、
誉田御廟山古墳が
最も大きく、それ
に次ぐ大きさの古
墳は、**造山(吉備)**、
太田天神山(下野)、
男狭穂塚(日向)。
大きさの差は何を
意味するのか？

古墳時代中期の
おもな大型前方後円墳

Point. 前期古墳と中期古墳では、副葬品が大きく変わる！

【副葬品】

前期 鉄製の武器・農工具
銅鏡(三角縁神獣鏡など) 呪術
腕輪型石製品 道具



中期 鉄製の武器・武具・馬具

【被葬者】

前期 司祭者(呪術者) 的性格



中期 武人的性格



1 東アジア情勢の変化

中国では晋の三国統一後、4世紀初めに北方の五胡の侵入を受け、南北朝の分裂時代を迎えた。朝鮮半島では国家形成の動きがみられた。

北方非漢民族(遊牧・狩猟民)



5世紀の東アジア

【朝鮮半島北部】

高句麗：中国東北部におこり
南下→ 313年に楽浪郡を滅ぼす。

【朝鮮半島南部】

馬韓地方 → **百濟**統一(4世紀)

辰韓 " → **新羅**統一(4世紀)

弁韓 " → **加耶**(加羅)諸国

※伽耶は統一国家ができず、都市連合のまま。

『日本書紀』では

「**任那**」と呼んだ。

2 朝鮮半島と倭国(ヤマト政権) ※「謎の4世紀」資料p42

朝鮮半島南部の鉄資源を確保するため、(ケ**加耶**)との密接な関係をもっていた倭国は、4世紀末から(コ**高句麗**)と交戦した。

(父王 好太王の業績を記す)
百済と新羅は高句麗の属国だつたのに、倭が攻めてきて2国を奪った。そこで好太王は水軍を率いて、侵入してきた倭を……………。

好太王碑文
百残・新羅は旧是れ属民なり。由来朝貢す。
而るに倭、辛卯の年(注)よりこのかた、海を渡りて百残を破り新羅を□□し、以て臣民と為す。六年丙申を以て、王躬ら水軍を率ゐ、残国を討科す。
……十四年甲辰、而るに倭、不軌にして帯方の界に侵入す。……倭寇潰敗す。

(注) 辛卯の年…三九一年



好太王碑

謎の4世紀を解明する文字は、3つしかない！

4 鉄刀や鏡とともに広がった漢字文化



〔表〕**泰和四年十一月十六日丙午**
 正陽造百練鉄七支刀□辟百兵
 宜供侯王□□□□作

〔裏〕先世以来未有此刀百濟王
 世子奇生聖音故為倭王旨造
 伝示後世

*中国の東晋の年号である太和四
 (二六九)年とみる説、西晋の泰始四
 (二六八)年とする説などがある。

③① **石上神宮七支刀** 物部氏の氏神である石上神宮に伝わる鉄製の刀で、刀身の左右に各3本の枝刃を段違いにつくり出した形をしている。表裏合わせて60余字の銘文が金象嵌で刻まれており、『日本書紀』に百濟から献上されたとある「七枝刀」とされている。〈国 奈良 長さ74.9cm〉



③② **隅田八幡神社人物画像鏡** 鏡背面の主要図像は中国製の神人画像鏡を模写したもので、まわりに48字の銘文がある。癸未年については、503年とする説と443年とする説が有力。〈国 和歌山 直径19.8cm〉

3 中国南朝と倭の五王

朝鮮南部をめぐり、5世紀初めから約1世紀近く、讃・珍・済・興・武の倭の五王があいついで中国の南朝に朝貢した。

倭王武の上表文

興死して弟武立つ。自ら使持節都督倭・百済・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓七国諸軍事安東大將軍倭国王と称す。

順帝の昇明二年^①、使を遣して上表して曰く、「封国^②は偏遠にして、藩を外に作す。昔より祖彌^③躬ら甲冑を擐き、山川を跋涉して寧処に違あらず^④。東は毛人^⑤を征すること五十国、西は衆夷^⑥を服すること六十六国、渡りて海北^⑦を平ぐるること九十五国……」と。

〔宋書〕倭国伝、原漢文

① 四七八年。② 領域、自分の国のこと。③ 父祖という説と、武の祖父の珍を指すという説とがある。④ 落ちついて
いる暇もない。⑤ 蝦夷だけでなく東国の人びとを呼んだ
のであろう。⑥ 西国の人びとのことか。⑦ 朝鮮半島のこ
とか。

興が死んで、弟武が大王こよつた。
自分は、昔かつ自つ戦ハこ付き、
東国かつ西国まで正服し、さらに
毎を度り朝鮮も正服した。
だから、それつ刀也或を収める将
軍（吏持節都督……安東大將軍）と
して認めてくれ。

5世紀の文字史料 2つの鉄剣銘文

A. 稻荷山古墳(埼玉県) 出土鉄剣

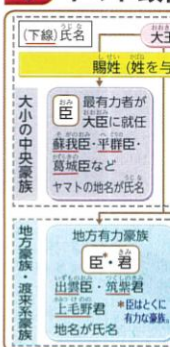
B. 江田船山古墳(熊本県) 出土鉄剣

江田船山古墳出土鉄剣 背の部分に銀象嵌された銘文のうち、「獲加多支鹵大王」とする説が有力で、被葬者とヤマト政権との間には何らかの関係があったと考えられる。(東京国立博物館蔵 長さ90.6cm)

（書下し文）
天の下治しめす獲加多支鹵大王の世、事え奉る典曹人、名は王、八月、大鉄釜并に四尺の延刀を用いて、八十人ひ縛り、囚たひ振つ。一寸上好の罰刀也。此の刀を服する者は長寿にして子孫は洋々、の恩を得る也。其の統ぶる所を失わず、刀を伴る者、名は伊太、書く者は源安也。

＊ヤマト政権の工房に依頼した品が地方に伝わったとする説もある。

6 ヤマト政治



氏姓制度（左）と政治
来や奉仕の内容にもとづいて

3 鉄剣・鉄刀にみるヤマト政権の広がり

A 稲荷山古墳出土鉄剣

（書下し文）
其兄名加多支鹵余其兄名平德臣世々為校刀人官奉事来至今獲加多支鹵大王寺在斯鬼宮時吾左治天下令作此百練利刀記官奉事根原也
延、斯鬼宮に在る時、吾、天下を左治治めるのを輔佐し、此の百練の利刀鍛えられた刀を作しめ、吾が奉事の根原、由來を記す也。

稲荷山古墳出土鉄剣 鉄剣の両面には金象嵌の銘文が記されている。表面の「辛亥年」は471年、裏面の「獲加多支鹵大王」は雄略天皇をさすと考えられ、「獲加多支鹵大王」は「宋書」倭国伝にある倭王「武」とみられることから、5世紀後半にはヤマト政権と東国に何らかの関係があったことがわかる。
＊工芸装飾の技法。金属などの材料の表面にほかの材料をはめ込む。

B 江田船山古墳出土鉄刀

治天下獲加多支鹵大王世奉事典曹人名无利王八月月中用大鉄釜并四尺延刀八十握一寸上好利刀服此刀者長寿子孫洋々得恩也不失其統作刀者名伊太和書者源安也

原始・古代 古墳

ワカタケル 獲加多支鹵大王 とは？

まとめと振り返り

1. 古墳の出現とヤマト政権

3世紀中頃から後半にかけて、画一的な前方後円墳の出現とともにヤマト政権が大和地方を中心に成立した。ヤマト政権は、4世紀中頃までに東日本の広大な地域を組み込んだ。

2. 前期・中期の古墳

古墳の墳丘上には埴輪が並べられ、埋葬施設や副葬品、被葬者、墳丘の規模などに特徴がみられる。中期の近畿中央部以外的大型前方後円墳は、ヤマト政権において、地域の豪族が重要な位置を占めていることを表している。

3. 東アジア諸国との交渉

緊迫化する東アジア情勢の中、倭国(ヤマト政権)は、朝鮮半島南部の鉄資源をめぐって高句麗と戦い、さらに外交・軍事上の立場を有利にするため、倭の五王が中国の南朝に朝貢した。

1. 古墳時代の前期・中期・後期の特徴を比較しなさい。

※場所・大きさ・形・広がり・副葬品の5つの特徴をまとめ、前期・中期で比較できるようにまとめる。

①前期

②中期

③後期 (No.6プリントを学習したあとで記入)

2. 世界遺産の百舌鳥・古市古墳群について、200字程度の紹介文を作りなさい。

(各自でやっておく)

3. 「宋書倭国伝」と、日本に残る2つの鉄剣銘文(資 p 44) から推定できる5世紀の「倭の五王」の動きを説明せよ。

【解法】以下のア～ウの3つの文を作成する。

ア.「宋書倭国伝」では、倭王(誰)が(誰)に(どのような要請)を行ったか。

イ.2つの鉄剣銘文には、(誰)大王の名前が共通して刻まれているか。

ウ.アとイの事実から、倭王(誰)は(誰)大王、つまり(誰)天皇であると考えられ、

5世紀には、ヤマト王権の支配権が(どこ)から(どこ)まで及んでいたことが推定されるか。